

民主化闘争情報

No. 904
2014年4月1日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

3月31日、JR総連傘下の日本貨物鉄道労働組合（略称：日貨労）で、
またもや「ヤミ専従」問題が発覚した。厳しい経営環境下、コスト削減に
相反する日貨労の不正行為を見逃してきたJR貨物会社の責任は重大だ。

日貨労で「ヤミ専従」問題が発覚！

「ヤミ専従」とは、非専従の組合役員が、勤務時間中に正規の手続きをとらずに、
職場で勤務しているように装いながら給与を受給しつつ、実際は職場を離れて組合活
動に専念するものだ。

貨物鉄産労によれば、某機関区所属の日貨労本部非専従役員は、ある月の勤務実態
は4日のみ、休日を除く他のすべての日が「経営協議会」として勤務認証され、その
多くが実態のないものだという。また、当役員以外にも「ヤミ専従」役員が複数存在
するという。

JR連合は、今日まで、JR貨物の厳しい経営環境を踏まえ、JR貨物に働く仲間
の労働条件の維持・向上のために、各種税制優遇措置の延長や新設、東日本大震災に
よる被災に対する公的助成、そして鉄道・運輸機構特例業務勘定の利益剰余金を活用
した追加支援策などを求め、勝ち取ってきた。さらには、現在「三島・貨物経営安定
化プロジェクト」及び「鉄道貨物モーダルシフトプロジェクト」を立ち上げ、JR貨
物の経営安定そして鉄道貨物ネットワーク構築にむけた政策提言を進めている。

JR貨物はこうした支援策等を受けつつ、支援の前提として国に示した「経営自立
計画」達成にむけ、ボーナスカット等による人件費削減をはじめとするコスト削減や
人員抑制を進めており、JR貨物に働く仲間は、この難局を乗り越えるべく、歯を食
いしばって、業務に従事している。こうした中で、最大労組である日貨労とJR貨物
会社が癒着し、働かずして給与を霞み取る「ヤミ専従」が横行していることは、まじ
めに働く社員に対する「背信行為」に他ならない。

日貨労の「言いなり」で繰り返される「不正行為」！

日貨労の「ヤミ専従」問題は2004年にも発覚している。不正行為を告発した貨物鉄
産労に対して、会社は「是正する」と約束していたにもかかわらず、不正行為は繰り
返されたのだ。年休の取得すら厳しい人員体制の中、日貨労そして会社は社員、組合
員にこの不正行為をどう説明するのか。そして、社員、組合員にコンプライアンス遵
守を求める一方で、今回のコンプライアンス違反をどう説明するのか。

JR連合は、革マル派浸透が危惧される日貨労との癒着関係を脱し、真に働く者に
資する労使関係の構築なくして、JR貨物の再生、経営自立はもはや不可能だと考える。

今回発覚した「不正行為」は氷山の一角であり、JR貨物会社はその全容を明らか
にすべきである。

私たちJR連合は、JR貨物会社の猛省と「労政転換」の英断を強く求める。

JR貨物会社は労政転換の英断を！

良識ある日貨労組合員の皆さん、勇気ある行動を！